

A 4 3

初級

(実習あり)

良い発明提案書の書き方

漏れ・抜けのない発明提案書、自分の発明の伝え方
弁理士からみた良い発明提案書とは？

講 師	弁理士 泉通博 (創光国際特許事務所所長 元キャノン)
日程・場所	東京会場
	12月17日(木)
時 間	半日間 (13:30~16:30)
アクセス	https://www.jpds.co.jp/company/access.html
定 員	24名 (先着順申し込み)
受講料 (税別)	12,000円
対 象	研究開発担当者、知的財産部門の実務者

内 容

どんなに素晴らしい発明をしても、的確な特許を取得できなければ、それまでの研究開発の努力が報われません。その原因として、発明の内容が特許担当者や弁理士に正確に伝わっていなかったことが考えられます。本講座では、研究開発者や特許担当者の方を対象に、弁理士からみてどのような内容が発明提案書に書かれていると的確な特許を取得できるのか、弁理士経験豊富な講師が事例を交えて分かり易く説明します。また、演習で発明提案書を書くことにより、更に理解を深めます。

プログラム

1. 発明提案書の重要性
 - ・ 事例
 - ・ 弁理士への伝え方
2. 特許を取得するための要件
 - ・ 特許取得までの流れ
 - ・ 取得の要件
3. 発明提案書作成のポイント
 - ・ 発明の背景、名称、従来技術、課題、詳細な説明、発明のポイント
4. 演習
 - ・ 演習事例に基づく発明提案書の作成

【備考】

- ・ 一部演習を伴います。
- ・ セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。